

賃ノ騰貴ヲ防止スルノ方法トシテ需要ノ方面ヨリ立論シテ労働者ノ住居移轉ノ自由ヲ制限シ都市ニ於ル人口ノ集中ヲ阻止スルノ議ヲ立ル者アリ、「ロッセル」ノ如シ。或ハ工場ノ設置區域ニ制限ヲ加ヘ工場ノ所在ヲ都市ヨリ附近ノ農村ニ移シ、工業所在ノ集中ヲ調節スルコトヲ主張スル者アリ。一部ノ社會主義者ハ此說ヲ主張セリ。或ハ供給ノ方面ヨリ立論シテ家賃ノ低廉ヲ圖ルノ方法トシテ都市ノ宅地公有ノ議ヲナス者アリ、「ワグナー」等ノ如シ。是等ノ說タル要スルニ餘リニ詭激ナル畫策トシテ社會改良家ノ間ニ擯斥セラレタリ。今茲ニ是等ノ畫策ニ就キ稍々穩健ニシテ而モ實行ノ緒ニ就ルモノヲ掲ゲン。

第一 家屋ノ供給ニ關スル方法

此方法タル二種ニ分レタリ。一ハ貸家ヲ建築シ低廉ナル家賃ヲ以テ労働者ニ住居ヲ供給スルノ目的ニ出ルモノニシテ一ハ労働者ヲシテ自己ノ住居ヲ所有セシムルヲ以テ目的トセルモノトス。此二種ノ方法ヲ實行ス

家屋ノ供給
ニ關スル方
法

ルニ就キ之ヲ經營スル所ノ主體ニ依ツテ分類叙述セン。

(1) 労働者ノ組合。此方法タル労働者ガ特ニ住居ニ關スル組合ヲ設ケ定期ニ定額ノ出金ヲナシ、之ヲ資本トシ組合ノ事業トシテ家屋ノ買入若シクハ建築ヲナシ、而シテ是等ノ家屋ニ就テ或ハ低廉ナル家賃ヲ以テ組合員ニ貸付ケ或ハ原價ニテ之ヲ組合員ニ賣渡スモノトス。此組合ハ米國ニテ建築及金融組合 (building and loan association) ト云ヒ獨逸ニテ建築及貯金組合 (Bau und spar Kassen) ト云フ。是等ノ組合ガ貸家ノ業ヲ營ム場合ニハ其方法ハ簡單ナリト雖モ、家屋ヲ組合員ニ賣渡ス場合ニハ復雜ナル手續ヲ履ムモノトス。今米國ニ行ハル、實例ヲ述ベンニ、組合ハ組合員ヲシテ競争入札ヲナサシメ、最高價ノ入札ヲナシタル者之ヲ買取ルノ權利ヲ有ス。代價ノ支拂ニ就テハ一時ニ之ヲ支拂フハ労働者ノナス能ハザルコトナルヲ以テ年賦ノ方法ニ依ツテ支拂ヲナサシムルナリ、只當初ニ年賦以外ニ代價ノ一割内外ノ一時金ノ納付ヲナスヲ要ス。斯クテ所有權ノ

移轉ヲナスモ年賦ノ期間内ハ組合ハ其賣渡タル家屋ヲ以テ未納代價ノ擔保トナセリ。又組合員ガ年賦ヲ完了セズシテ死亡スル場合ヲ豫想シ生命保險ノ契約ヲナサシメ其保險金ニ依ツテ未納代價ノ填補ヲナスコト、セリ。或ハ此種ノ組合ニシテ組合員ガ家屋ヲ建築或ハ買入ヲナサントスル場合ニ相當ノ貸附金ヲナスヲ業トセルモノアリ。

勞働者ノ組合ヲシテ是等ノ業ヲ營マシムルコトハ社會改良上稱揚スベキコトタルヤ固ヨリ言フ俟タサル所ナルモ、是ノ如キ組合ヲ組織スルハ高等勞働者ヲ俟ツテ始メテ行ハルベク一般勞働者ハ到底之ヲ經營スルコト能ハズ、從ツテ此方法ノ恩澤ハ普ネク一般ニ及ボスコトヲ得ザルノ不便アリ。又此組合ニシテ貸家ノ業ヲ營ミ低廉ナル家賃ノ家屋ヲ供給スル場合ニハ何等ノ弊害ナキモ、家屋ノ賣買ヲナス場合ニ在ツテハ組合其物ガ往々投機事業ヲ營ムノ弊害ニ陥ルコトアリ。加之ノミナラズ買受人タル勞働者ニ對シ組合ガ嚴重ナル監督ヲ施スニ非レバ勞働者ハ永久ニ

之ヲ保持スル能ハズ他ニ之ヲ轉賣スルコトナシトセズ、或ハ利益ヲ得ル爲ニ之ヲ轉賣シ一種ノ投機ニ陥ルコトモ亦之アルヲ免レズ。

(2) 資本案ノ施設。特定ノ資本案ガ自己ノ傭使セル勞働者ノ爲ニ或ハ貸家ヲ造リテ低廉ナル家賃ヲ以テ之ニ住居セシムル場合アリ或ハ家屋ヲ建築シテ年賦拂ノ方法ニテ之ヲ賣拂フアリ。時トシテ勞働者ニ建築ノ資金ヲ貸附クルコトモアリ。是等ノ實例ハ各國ニ於テ其數少シトセズ、就中最モ顯ハル、モノヲ獨逸「クルツ」工場トナス。

該工場ニテハ勞働者ノ爲ニ數多ノ貸家ヲ建築セリ。一八九一年ノ報告ニ依レバ貸家ノ總數三六五九ニシテ、之ニ住居セル勞働者ノ總數約二萬五千ナリト云フ。而シテ之ニ放下セル資本額ハ一千二百萬麻ニ達セリ。資本ニ對スル金利ノ計算ハ年二歩以内トシ之ニ基キテ家賃ヲ定メタリ。

該工場ハ又勞働者ヲシテ自家ノ所有者タラシムルノ目的ヲ以テ特別ノ資金ヲ積立テ之ヲ勞働者ニ貸附スルコト、セリ。一八八九年ニ先ヅ五十

萬麻ノ資金ヲ供出シ勞働者ニ對シテ建築ニ要スル資金ノ貸附ヲナセリ。此貸附ノ條件トシテハ勞働者ハ既婚者タルコト、一ケ年ノ所得三千麻以下タルコト、三ケ年以上非行ナク勤續スルコト、兵役ノ義務ヲ終了セルコト、及ビ一時ニ建築ノ爲ニ三百麻以上ノ資金ヲ自ラ供出スルコト等トス。貸附ノ利率ハ年三步トス。償還期間ハ二十五年以内トシ年賦金ハ元利ヲ合算シテ毎年均一ノ額トセリ。貸附ノ擔保ハ其ノ買入レタル家屋土地ヲ以テ之ニ充ツルモノトス。最近ノ報告ニ依レバ此資金ハ六十二萬麻ニ増加シ、約二百人ノ勞働者ハ之ニ依ツテ自家ノ所有者トナレリト云フ。資本案ノ施設トシテ勞働者ニ貸家ノ供給ヲナスコト及ビ自家ノ所有者タラシムルコトハ慈惠の方針ニ依ル社會政策トシテ稱揚スベキ價值アルハ固ヨリ疑ヲ容レザル所ナリ。然リト雖モ資本案ガ勞働者ヲ保護スルノ精神ニ基キテ是等ノ施設ヲナスニ非ラズ、勞働者ニ對シテ壓迫ヲ加ヘ制御ヲ容易ナラシムルノ手段トシテ之ヲナスコト往々之ナシトセズ。此

場合ニ於テハ勞働者モ亦此束縛ヲ免ル、爲ニ成ルベク之ヲ避クルノ傾向アルヲ免レズ。此事タル資本案ノ慈惠施設トシテ住家ノ供給ヲナスニ當リ深ク注意スベキコト、又勞働者ヲシテ自家ノ所有者タラシムルニ就テハ勞働者ヲシテ永久ニ其家屋ヲ所有セシムル爲ニ、容易ニ之ヲ轉賣スルコトナク、又之ニ依ツテ投機ヲ圖ルノ弊ヲ矯正スルノ必要アルコトハ勞働者ノ組合ノ經營ニ成ル場合ト其趣ヲ異ニセズ、

(3) 慈惠團體ノ事業。慈惠團體ノ事業トシテ勞働者ノ爲ニ貸家ヲ建築シ或ハ自家ヲ所有セシムルノ方法ヲ設クルコトハ各國ニ於テ近時盛ンニ行ハレタリ。此種ノ施設ニ就テハ勞働者ノ組合ニ於ルガ如クニ資金ノ不足ヲ感ズルコトナク、又資本案ノ事業ニ於ルガ如クニ勞働者ガ之ニ依ツテ束縛ヲ受ケ壓迫ヲ加ヘラル、ノ弊害ナキヲ得ルナリ。「シユモラー」ノ如キハ此方法ヲ以テ住居問題ノ解決ニ最モ適切ナルモノト認メ頻リニ之ヲ鼓吹セリ。

此種ノ事業ニ就テハ獨逸ノ「ミュールハウゼン」市ニ在ル所ノモノ最モ好適例ヲ示セリ。一八五三年該市ノ工業者聯合シテ一團體ヲ組織シ株式會社ノ形式ニ依リ三十五萬法ノ資金ヲ以テ業ヲ創メタリ。當初ハ佛國政府ノ補助金ヲ得タリキ。此團體ガ一八九七年マデニ建築セル家屋ノ數ハ一二四三ニシテ其價格合計ハ三、四四〇、〇〇〇麻ナリ。是等ノ家屋ハ總テ勞働者ニ賣渡タリ。勞働者ニ家屋ヲ賣渡スニ就テハ最初二五〇乃至三〇〇麻ノ出金ヲナサシメ殘額ハ月賦ニテ支拂ヲナサシムルモノトス。因ニ云フ該市ハ普佛戰爭ニ依リ佛國ヨリ獨逸ニ割讓セルモノナリ。

(4) 都市ノ事業。都市ノ事業トシテ都市ガ其備使セル勞働者ノ爲ニ貸家ヲ設クルコトハ其例少ナシトセズ。獨逸ニテハ「フランクフルト」市英國ニテハ「バーミンガム」市ノ如キ其模範ヲ示セルモノト云フベシ。此場合ニ於テハ都市ガ資本案ノ地位ニ立ツテ貸家ノ業ヲ營ムモノタリ。從ツテ先キニ述ブル所ノ資本案ノ施設ト同一ノ性質ヲ有セルナリ。然レドモ都

市ノ行政事項ノ一トシテ貸家ノ建築ヲナス場合ハ之ト其趣ヲ異ニシ、之ニ住居セシムベキ勞働者ハ都市ノ事業ニ備使セルト否トニ拘ラズ總テノ勞働者ヲシテ此恩澤ニ浴セシムルモノトス。此事業ノ來歴ヲ按ズルニ、近時歐洲大都市ニ於テハ從來市内ニ存在セル細民ノ住家ハ極メテ不完全ニシテ且ツ不潔ナルヲ以テ公共衛生ノ爲ニ之ヲ一掃シ去ルノ必要アリ。而シテ只之ヲ除去スルノミニテ之ニ代ルベキ住家ヲ建設セザルトキハ細民ノ不幸甚シキモノアルヲ以テ、此除去セラレタル地域ニ於テ公共ノ費用ヲ以テ勞働者ノ住居トシテ適當ナル貸家ヲ建築スルノ必要ヲ生ジタリ。此理由ニ基キテ社會改良策ニ注意セル所ニ在ツテハ市業トシテ貸家ノ建築ヲナスモノ起レリ。

都市ノ事業トシテ勞働者ノ家屋ヲ建築スルニハ貸家トシテ低廉ナル家賃ヲ以テ住居セシムルノ目的ニ出ルモノ多シ。勞働者ヲシテ自家ノ所有者タラシムルノ目的ニ出ルモノハ稀ニ之ヲ見ルノミ。後者ノ必要ノ爲ニ

ハ都市ハ家屋ノ建築ヲナサントスル私人若シクハ團體ニ向ツテ其所有ニ係ル土地ノ拂下、貸下ヲ行フコトアリ、或ハ資本ノ貸附ヲナスコトアリ。夫ノ英國一八九九年細民家屋收得法 (small dwelling acquisition act) ハ此目的ノ爲ニ制定セラレタルモノナリ。此法律ノ要旨ヲ按ズルニ貸附金ハ家屋價格ノ五分四以内トシ而シテ四百磅ヲ超過スルコトヲ得ズ、償還期限ハ三十年以内トス、利率ハ公共事業公債局ノ貸附利率ヲ超過スルヲ得ズ、償還方法ハ主トシテ年賦金ノ方法ニ依レリ。

住居問題ノ解決殊ニ家屋ノ供給ニ關スル施設ノ種類ハ右述ブル所ノ如シ。此外各國ノ政府ガ勞働者ノ爲ニ貸家又ハ自家ノ建築ヲナサントスル私人、慈善團體及ビ自治體ニ向ツテ資本ノ供給ヲナスノ實例多シ。其ノ最モ顯著ナルハ白耳義トス。一八八九年法律ニ依リ、貯金局ヲシテ其ノ保管セル貯金ヲ此目的ニ運用セシメタリ。此資金ノ貸附ヲナスハ直接ニ勞働者ニ對シテ之ヲナスニ非ラズ、信用アル中介者ヲ經テ貸附ヲナスモノト

ス。此中介者タルモノハ主トシテ組合若シクハ會社トシ、個人ナル場合ハ甚ダ少ナシ。或ハ産業組合アリ、或ハ建築會社アリ、或ハ建築資金貸附會社アリ、其種類固ヨリ多シ。

貯金局ガ貸附ヲナスニ就テハ其資金ノ使用者ハ皆ニ勞働者ニ限ラズ、其他ノ階級ノ者モ亦此利益ヲ享受スルコトヲ得ルモノトス。

英國ニテハ一八九〇年職工住居法 (Housing of the working Classes act) ニ依リ公共事業公債局ノ資金ヲ自治體若シクハ會社、私人ニ貸附ルノ方法ヲ設ケタリ。

自治體ニ貸附ヲナス場合ニ公共衛生ノ爲ニセル貸附ト同一ノ方針ニ依リ償還期限ヲ五十年以内トシ、利率ハ通常三步半トセリ。

會社、私人ニ對スル場合ニハ償還期限ハ四十年以内トシ而シテ貸附金額ハ其土地家屋ノ價格ノ半額以下トス。

私人ノ場合ニハ其敷地ヲ所有スルカ或ハ五十年以上ノ期限ノ借地權ヲ

有スルコトヲ要ス。

第二 宅地ノ供給ニ關スル方法

宅地ニ關スル方法ノ首要ナルモノハ宅地ノ投機的賣買ヲ防止スルニ在リ。宅地ノ投機ハ動モスレバ宅地ノ供給ヲ減少スルノ傾向アルヲ免レズ、奈何トナレバ大都市ノ附近地方ニ於テ將來宅地トシテ利用セラルベキ土地ガ投機者流ノ手ニ落ツレハ將來ノ騰貴ヲ豫想シ強テ之ヲ建築ニ利用スルコトナク空地ノマヽニテ存續スル場合往々之アレバナリ。且又土地ノ投機的賣買ハ延イテ土地ノ兼并ヲ馴致シ少數ノ地主ガ廣キ面積ノ宅地ヲ所有スル結果トシテ地代ガ豫期セザル騰貴ヲナスコトナシトセズ。願フニ投機的賣買ノ價格ハ事實ノ地代ニ基キテ計算セラレタルモノニ非ラズ從ツテ不相當ナル高價トナルヲ免レズ、而シテ之ヲ貸附ルニ當ツテ地主ハ此不相當ナル價格ニ基キテ地代ヲ割出ス爲ニ地代ノ騰貴ハ非常ナル程度ニ上ルコト亦往々之アリトス。抑モ地價ト地代ノ關係ニ就

キ地代ノ高低ニ伴ツテ地價ノ高低ヲ生ズルハ必然ノ事タリ。此場合ニ於テ地代ハ地價ノ利子ト認メラレ地代ヲ資本ニ換算セル金額ハ即チ地價トナリテ現ハルヽモノナリ。地代ハ原因ニシテ地價ハ結果タリ。此原因結果ノ關係ニ依リテ起ル所ノ經濟現象ハ之ヲ奈何トモスベキニ非ラズ。然レドモ地價ノ高低ニ伴ツテ地代ノ高低ヲ來タス事實アリ。此場合ニハ地價ノ高代ハ原因ニシテ地代ノ高低ハ之ガ結果タルナリ。方今歐洲各國ノ大都市ニ於テ土地ガ投機ノ目的物タル場合ニ此事實ハ最モ顯著ナリトス。一九〇一年獨逸社會政策會ニ於テ住居問題ガ議題トナリタルトキニ際シ此點ニ就キ詳細ナル討論アリタリ。實ニ土地ノ投機的賣買ハ社會政策上忽諸ニ附スベカラザル事ト云フベシ。之ヲ要スルニ此事實ノ爲ニ地代ノ騰貴ヲ來タスハ先ニ述ブル所ノ宅地ガ獨占的性質ヲ有セル結果トシテ起ルモノニシテ耕地ニ於テハ之ヲ認ムルヲ得ズ只宅地ニ於テノミ存スルモノトス。是等ノ弊害ヲ矯正スル爲ニ各國ニ行ハレタル實例種々

アリ、茲ニ其主要ナルモノヲ掲ケム。

(1) 土地賣買ニ關スル登録稅ヲ重課スルコト。此方法タル白耳義ニ於テ行ハル、モノニシテ其効力ハ顯著ナルモノアリト云フ「ブランド」ノ說ニ依レハ該國ニ於テ宅地ノ投機少ナク地價ノ暴騰モ亦他國ノ如ク已甚シカラザルハ主トシテ此登録稅法ノ結果ナリト云ヘリ。然レドモ此方法ニ依ルトキハ土地ノ投機的賣買ノ弊害ハ之ヲ防止スルコトヲ得ルモ正當ナル賣買ニ對シテ亦過重ノ負擔ヲナサシムルノ憂ナシトセズ、奈何トナレバ土地ノ賣買ニ就キ投機ノ目的ニ出ルモノト然ラザルモノトノ區別ヲナスコト能ハザレバナリ。

(2) 地租課稅方法ノ改正。普魯西ニテハ從來地方稅制ニ於テ自治體ガ土地ニ課稅ヲナス場合ニハ土地ノ收益ヲ以テ課稅ノ標準トナシタリ。去レハ建築ナキ土地ハ何等ノ收益ヲ生ゼザルノ理由ニ依リ課稅ヲ免除セラレタリ。一八九三年內務大臣「ミケール」ノ地方稅制ノ改正ハ主トシテ此

點ニ向ツテ斧鉞ヲ加ヘタリ、即チ自治體ガ土地ニ課稅スル場合ハ土地ノ價格ヲ以テ課稅標準トナシ其收益ノ奈何ヲ問ハザルコト、セリ。從ツテ建築ナキ土地ハ毫モ收益ヲ生ゼザルニ拘ラズ、建築アル土地ト同一ノ負擔ヲナスコト、ナレリ。此改正ノ結果トシテ將來土地價格ノ騰貴ヲ見込テ土地ノ買入ヲナシ、毫モ之ヲ建築ニ利用セズ空地トシテ之ヲ保存スル所ノ投機的地主ヲ減少セリ。

(3) 宅地ノ公用徵收。「バーデン」ニ於テハ建築ナキ土地ニ就キ住家ノ需用増加シタルニ拘ラズ地主ハ之ニ建築ヲナサズ又貸付ノ要求ヲ拒絕スルトキハ公益ノ理由ニ基キ公用徵收法ヲ適用スルコトヲ得ルノ法律ヲ制定セリ。普魯西ニ於テモ亦此問題ハ頻リニ社會改良家ノ間ニ研究セラレタルモ未タ法律ノ制定ヲ見ズ、只「フランクフルト」市ニ於テ市條例ニ依ツテ之ヲ實行セリ。

(4) 土地增價稅。土地增價稅ハ交通稅ノ一種ニシテ過去ノ賣買價格ト

現在ノ賣買價格トヲ比較シ其ノ増加セル部分ニ對シ課税スルモノトス。徵收ノ方法ハ賣買ノ際ニ之ヲ賦課シ普通ノ登録税ト其趣ヲ一ニセリ。此税目ハ獨逸ノ新領土タル膠州灣ニ施行シタルモノヲ嚆矢トシ、漸次獨逸ノ本國ニ及ビ大都市ニ於テ市税トシテ之ヲ採用セルモノ甚タ多シ。一九〇五年英國ニテハ之ヲ國税トシテ實施シ一九一一年獨逸ニハ之ヲ帝國ノ租税ニ採用セリ。

此税目タル財政上ヨリ觀察シテ至當ナル租税タルノミナラズ、宅地ニ關スル政策トシテ必要ナルモノタリ。凡ソ財産ノ收得ニ就キ何等ノ勞力ヲ施サズ毫末ノ出費ヲ要セズ只社會的經濟的の外部ノ事情ニ依ルモノ、即チ偶然ノ收得ハ課税公平ノ原則ニ照ラシ逸スベカラザル好個ノ財源タルコトハ財政學上議論ノ餘地ナキ事タリ。此理由ニ基キ財政學者ハ土地増價税ノ必要ヲ唱道セリ。更ラニ宅地ニ關スル政策トシテ此租税ノ性質ヲ按スルニ、近時都會ノ宅地ガ徒ラニ投機ノ目的物トナリ兼并ノ弊害ヲ馴

致シ延イテ地代ガ不自然ナル騰貴ヲナスノ事實ハ掩フベカラザル事タリ。此弊害ヲ矯正セント欲セバ土地ノ賣買ニ關スル課税ヲ重クスルニ在リ。然レドモ只土地賣買ノ課税ヲ重クスルトキハ正當ナル目的ヲ有セル賣買ニ對シテ重キ負擔ヲナサシムルノ憂アルハ先ニ述べタル白耳義ノ實例ニ依ツテ之ヲ推知スルコトヲ得ベシ。今若シ土地増價税ノ方法ニ依ツテ増加價格ニ對シテノミ課税スルコト、セバ主トシテ投機的賣買ニ課税スルコトヲ得ベク立法ノ目的ヲ達スルコト容易ナルベシ。獨逸政府ガ膠州灣ニ於テ始メテ此税目ヲ採用シタル所以ハ財政上ノ理由ヨリハ寧ロ宅地ニ關スル政策ノ理由其重キニ居レリト云フ。蓋シ新領土ナルモノハ土地ニ關スル投機的賣買ノ最モ盛ンニ行ハル、モノナレバナリ。今土地増價税ノ内容ニ就キ其主眼タルモノヲ舉ケン。

土地ノ種類ニ依ツテ税率ヲ異ニスルコト、即チ建築アル土地ト建築ナキ土地トヲ區別シ、前者ニ對シテハ税率ヲ低クシ後者ニ對シテハ之ヲ高ク

スルモノトス。是レ土地ノ利用ヲ獎勵スルト同時ニ投機ノ賣買ヲ防止スルノ必要ニ基クナリ。

税率ヲ定ムルニ當リ凡テ累進税法ニ依リ先ツ増加價格ノ歩合ニ依リ税率ノ高低ヲ定ムルモノトス。即チ増價ノ歩合高キトキハ高率ノ課税ヲナシ然ラザル場合ニハ低率ノ課税ヲナスコト是ナリ。又増加價格ヲ生ジタル期間、換言スレバ賣主ノ所有セル期間ノ長短ニ依リ利率ヲ異ニセリ、即チ長キ期間ニ於ル増加價格ハ短カキ期間ニ於ル増加價格ニ比シ増加ノ歩合ニ於テ同一ナリトセバ其税率ヲ低クスルコト是ナリ。

課税スベキ増加價格ノ最低度ヲ定ムルコト、即チ一定ノ歩合以上ノ増加價格ニ對シテ課税ヲナシ此程度以下ノ場合ニハ課税ノ免除ヲナスモノトス。是レ課税ノ煩累ヲ避クルノ趣意ニ基ケルナリ。

第二十二章 労働者ト産業組合

余ハ第八章ニ於テ小工業ト産業組合ノ關係ヲ論ジ産業組合ガ小工業者ノ生存發達ヲ助成スルノ力アルコトヲ述べタリ。抑モ産業組合ノ利益ヲ享クル者ハ管ニ小工業者ニ止ラズ、組合ノ種類ニ依ツテハ労働者ト雖モ尙ホ之ヲ利用スルコトヲ得ベシ。歐洲各國ニ於テ労働者ノ間ニ行ハレタル所ノ産業組合ノ種類固ヨリ多キモ其主要ナルモヲ擧グレバ消費組合及ビ生産組合ノ二者トナス。余ハ茲ニ是等ノ組合ニ就キ叙述スル所アラシ。

消費組合ノ性質

第一 消費組合

消費組合トハ組合員ノ消費スル所ノ生活必需品ヲ共同購入シテ之ヲ組合員ニ販賣スルヲ以テ其業務トナセル組合ナリ。顧フニ消費組合ガ購買組合ト異ナル所ハ其ノ取扱フ所ノ物品ノ種類ニ在リ。我國産業組合法ニ

於テハ此區別ヲナサズ二者與ニ購買組合ト稱セルモ、余ハ茲ニ歐洲各國ノ立法ニ基キ學說ノ慣例ニ從ヒ二者ノ區別ヲナセルコトハ先キニ述ブル所ノ如シ

消費組合ハ經營ノ方法ニ依リ更ラニ之ヲ二種ニ分ツコトヲ得ベシ。此區別タル組合員ニ物品ノ賣捌ヲナスニ當リ其價格ヲ定ムル方法ノ異ナルニ依ツテ起ルモノトス。即チ一ハ組合ガ購入シタル原價ニ加フルニ只組合ノ經營ニ必要ナル費用ノミヲ以テシ小賣ノ利益ヲ合算スルコトナクシテ販賣價格ヲ定メ、組合員ニ對シ一般小賣商ノ賣價ニ比シテ幾分カ低廉ナル價格ヲ以テ物品ヲ賣捌クヲ以テ目的トセリ。一ハ組合ガ組合員ニ要求スル價格ハ普通ノ市價ト同一ニシテ組合員ハ組合ヨリ購買スルモ小賣商ヨリ購買スルモ價格ニ等差ナシ、然レドモ組合ハ生産者又ハ卸商ニ就キ原價又ハ卸相場ヲ以テ物品ヲ購入シ小賣相場ヲ以テ之ヲ賣捌クヲ以テ之ヨリ生ズル小賣ノ利益ハ購買額ニ應ジテ組合員ニ分配シ而シ

テ此利益ハ各組合員ノ貯金トシテ組合ニ之ヲ保管スルモノトス。第一方法ハ組合員ノ生活ノ費用ヲ節約シ從ツテ組合員ヲシテ貯蓄ヲナスノ余裕ヲ有セジメ而シテ此余格ニ就キ貯蓄ヲ生ズルヤ否ヤハ組合員ノ意思ニ一任スルモノトス。第二方法ハ組合員ノ生活ノ費用ヲ減少スルコトナク而シテ組合員ニ代ツテ組合自身ガ貯蓄ヲ行フモノトス。方今歐洲各國ニ於テ盛ンニ行ハル、所ノ消費組合ハ概ネ第二方法ヲ採リ第一方法ニ依ルモノハ甚ダ少ナシ。去レバ余ハ茲ニ第二方法ニ依レル消費組合ニ就テ説明セント欲ス。

消費組合ハ職工組合ト均シク英國ヲ以テ其誕生地トナス。其濫觴ハ一八四四年「ロツチデール」市毛布職工ノ創立セルモノニ在リ。「ロツチデール」ハ「マシチエスター」附近ノ一小都市ナリ、十九世紀ノ中葉ノ頃、此地方ノ毛布工業ハ非常ノ悲境ニ沈淪シ失業勞働者ハ其數ヲ知ラズ、工場ニ留ル者ト雖モ賃銀ハ非常ニ低落シテ生計ノ困難名狀スベカラザルモノアリ、激烈

ナル同盟罷工ハ相踵イデ起リ政府ハ終ニ兵力ニ依ツテ之ヲ鎮定セルコト屢々之アリキ。當時救済ノ方法ニ就キ勞働者ハ屢々集會ヲ開キ種々ノ計畫ヲ立テタリキ。偶々該市ニ於テ「チャーチスト」黨(社會黨ノ一派)ノ會合アリケルガ「ホワース」ナル一勞働者ハ起テ消費組合ノ案ヲ演述セリ。然ルニ大聲ハ俚耳ニ入ラズ此巧妙ナル考案モ多數ノ贊同ヲ得ル能ハズシテ已ミタリキ。若干モナクシテ「ホワース」ハ二三ノ同志者ト與ニ該地方ノ勞働者ヲ歴訪シ之ニ參加スルコトヲ勸誘シ漸ク二十八名ノ贊成者ヲ得テ各々一磅ノ出金ヲナシ消費組合ヲ組織セリ。嗟此二十八名ノ組合員、二十八磅ノ資金ヲ以テ創立セラレタル組合ハ僅ニ七十餘年ヲ經過シタル今日ニ在ツテハ既ニ英國ハ勿論、大陸諸國ニモ普及セリ。此創立者タル二十八名ノ勞働者カ所謂消費組合ノ祖先トシテ其名聲ノ不朽ニ傳ハルモノ豈偶然ナランヤ。

「ロツチデール」組合ハ斯ノ如クシテ設立セラレタリ。業ヲ開クニ及ンテ其

效績ハ次第ニ世間ノ認ムル所トナリ數年ノ後ニハ會員ノ數六百ニ達セリ。是ヨリ後各地方ニ於テ之ニ則レル組合ノ設立ハ歲ヲ追フテ増加セリ。一八六二年ノ議會報告ニ依レバ組合ノ總數四百五十ニシテ組合員ノ總數九萬人ニ上レリ。一八六四年「エングランド」各地方ノ組合ハ互ニ聯合シテ「マンチエスタ」市ニ中央消費組合ヲ設ケ、一八六八年「スコットランド」各地方ノ組合ハ「グラスゴ」市ニ同一ノ設備ヲナセリ。是等中央消費組合ノ目的ハ各地方ノ組合ガ要スル物品ヲ共同ニ購入シ之ヲ配附スルニ在リ。此聯合機關ノ組織ハ更ラニ消費組合ノ發達ニ一大刺撃ヲ與ヘタルコト固ヨリ疑ヲ容レズ。此以後地方組合ノ進歩ハ實ニ駭々乎トシテ禦グベカラザルモノアリ。終ニ現今ノ盛運ヲ見ルニ至レリ。

余ハ是ヨリ英國ノ實例ニ基キ消費組合ノ組織及ビ事業ニ就キ述ブル所アルベシ。

消費組合ハ同一ノ地域ニ住居セル各種勞働者ヲ以テ組織シ、職工組合ノ

如ク同業ノ關係ヲ以テ其組織ノ標準トナセルモノニ非ラズ、大工場ニ在テハ一工場ノ労働者ノミヲ以テ組織セラレタルモノ往々之アリ。消費組合ハ組合員ノ間ニ物品ヲ賣捌クヲ主トセルモ、組合ニ依テハ組合員ニ非ザル者ニ對シ亦物品ノ賣捌ヲナセルモノアリ。此場合ニ於テハ小賣ノ利益ハ購買者ニ歸セスシテ、組合ノ手ニ落ち、從ツテ組合員ノ間ニ分配セラル、モノトス。

消費組合ノ賣捌ク所ノ物品ハ、飲食物、被服類、家具、雜貨品等總テ生活必需品トス。奢侈品ニ至ツテハ労働者ノ之ニ對スル需要少ナキノミナラズ、需要者ノ嗜好ニ就キ著シキ等差アリ。加之ノミナラズ之ガ購入ヲナスニハ巨額ノ資本ヲ要シ到底組合ノ事業タルニ適セザルヲ以テ之ヲ取扱ハザル組合多シ。

物品ノ販賣ハ現金ヲ以テシ決シテ掛賣ヲ許サズ。是レ組合財務ノ基礎ヲ鞏固ニスル爲ニ必要ノコトタリ然ルニ近時消費組合ニシテ掛賣ヲナス

モノ多ク社會改良家ノ間ニ問題トナレリト云フ。

組合ノ資本ハ組合員ノ出資ヲ以テ之ニ充テ此出資額ハ各組合員ニ對シ均一ナルヲ以テ通例トス。是レ産業組合ニ共通ノ性質ニシテ各組合員ヲシテ對等ノ權利ヲ有セシムルノ必要ニ基クナリ。

利益ノ計算ニ就テハ先ヅ出資ニ對シテ一定ノ利率ヲ支拂ヒ、又若干ノ準備金ヲ引去リ、其殘額ヲ以テ純益トナシ之ヲ組合員ニ配當スルモノトス。組合ニ依ツテハ、組合員ノ救濟、教育、娛樂ノ設備ノ費用ニ充ツル爲メ此純益ノ幾部ヲ割キテ積立金ヲ設ケ、其殘額ヲ以テ純益トシテ處分スルモノモアリ。

純益ノ處分ニ就テハ各組合員ノ購買額ノ多少ニ應ジテ配當ヲナスモノトス。例ヘバ百圓ノ購買ヲナセル者ハ五十圓ノ購買ヲナセル者ニ比シ倍額ノ配當ヲ受クルナリ。此配當ニ就テハ直接ニ之ヲ組合員ニ分配スル場合ハ少ナク、之ヲ各組合員ノ貯金トシテ組合ニ保管シ相當ノ利子ヲ附セ

六〇〇
リ、組合ハ之ヲ以テ更ラニ營業ノ資本トシテ之ヲ利用スルノ便宜ヲ有スルコト、ナル。

消費組合ニシテ事業ノ盛大ナルモノニ在ツテハ工場ノ設備ヲナシ其ノ販賣スル所ノ物品ヲ製造スルモノ少シトセズ。例ヘバ「ロッチデール」組合、リ
ーヅ組合等ノ如シ。

消費組合ハ労働者ノ組合ヨリ成リ其經營ハ労働者ノ自營ニ委スルヲ以テ原則トナスモ或ハ大工場ニ在ツテハ資本家ノ慈惠的施設トシテ經營セラル、ノ事例少ナシトセズ此場合ニハ資本家ハ組合ノ資本ノ大部分ヲ寄贈シ又事務ノ執行ニ就テハ工場事務員ヲシテ之ニ當ラシメ又其費用ノ幾分ヲ負擔シ労働者ヲシテ只純益ノ配當ニ與ラシムルモノアリ。中央消費組合ノ組織ハ消費組合ノ沿革史上最モ重要ナル事實ナリトス。抑モ中央組合ノ目的ハ先キニ述べタルガ如ク各地方ノ組合ノ爲ニ間屋ノ業ヲ營ムモノニシテ各地方ノ組合ノ爲ニ物品ノ購入ヲナシ又必要ニ

應ジ製造ヲナスモノトス。其資金ハ各地方ノ組合ノ出資ヨリ成リ之ガ代表者ハ其事務ヲ管理セリ。余ハ曾ツテ「マンチエスタ」市ノ中央消費組合ヲ縦覽シケルガ其規模ノ宏大ナルコト實ニ驚クニ堪ヘタリ。組合事務所ハ之ヲ販賣部、製造部、運搬部、銀行部ノ四部ニ分テリ。販賣部ニハ商品陳列館アリテ此組合附屬ノ工場ニテ製造シタル物品、及ビ卸商又ハ生産者ヨリ買入レタル物品ノ見本ヲ陳列シ、製造部ニハ製粉工場「チコロレート」ビスケト「工場、石鹼工場、靴工場、毛織物工場ノ附屬セルアリ、運搬部ハ六艘ノ商船ヲ有シ大陸諸國及ビ米國等ニ就キ物品ノ購入ヲナセリ、銀行部ニハ百餘名ノ事務員アリテ金錢ノ出納ヲ掌リ宛然一大銀行ノ風アリ。此組合ニ於ル重役ノ數五十餘人、事務員職工ノ數約三千七百人ノ多キニ及ベリト云フ、亦盛ナリト云フベシ。

余ハ茲ニ英國労働局年報ニ依リ英國消費組合ノ統計ヲ示サム。

組合數 組合員數 出資額 販賣額

一八八三年	一、〇五一	六二七、六二五	六、三九八、七四四	一八、五四〇、〇〇四
一八八四年	一、一二八	六九六、二八二	六、六五二、三九〇	一九、五六九、九四〇
一八八五年	一、一四八	七四六、七七二	七、五〇八、九〇〇	一九、八七二、三四三
一八八六年	一、一四八	七七四、四〇八	七、九一六、六五〇	二〇、四〇六、四三三
一八八七年	一、一五三	八二八、〇七三	八、五六一、〇九八	二一、三五八、二〇七
一八八八年	一、二〇四	八六七、二三三	八、九〇六、六六二	二二、九八七、二〇六
一八八九年	一、二九七	九三二、〇〇〇	九、五二一、一〇八	二五、八八七、二四〇
一八九〇年	一、二四〇	九六一、六一六	一〇、三二〇、七四三	二六、八八七、六三八
一八九一年	一、三〇七	一、〇四四、六七五	一一、三二二、八〇六	三〇、五九九、四〇一
一八九二年	一、四二〇	一、一二六、八八〇	一二、二〇八、六七七	三二、三四四、五三四
一八九三年	一、四二一	一、一六九、〇九四	一二、五二九、三五九	三一、九二五、八九六
一八九四年	一、四二一	一、二二二、九四五	一三、一八三、八六八	三二、二四二、三九四
一八九五年	一、四二三	一、二七五、六五五	一四、一二四、一〇四	三三、九〇五、九六二
一八九六年	一、四六二	一、三五九、八六五	一五、三八八、四九九	三六、七一五、一九一
一八九七年	一、四八三	一、四六八、六八二	一六、三二〇、九五二	四〇、一七五、七七四
一八九八年	一、五一三	一、五四四、七二五	一七、四三〇、〇六九	四二、六四四、七〇四
一八九九年	一、五三一	一、六二三、一一一	一八、九三七、五九五	四五、一一六、七九七

六〇二

一九〇〇年	一、四三九	一、七〇七、〇一一	二〇、五六六、二八七	五〇、〇五三、五六七
一九〇一年	一、四三八	一、七九三、一六七	二一、九六五、九九四	五二、七六一、一七一
一九〇二年	一、四五四	一、八九二、九八七	二三、一六七、二四四	五五、三一九、二六二
一九〇三年	一、四五五	一、九八七、四二三	三四、二一六、一〇五	五七、五一二、八八七
一九〇四年	一、四五四	二、〇七八、一七八	三五、一三九、五〇四	五九、三一八、八八五
一九〇五年	一、四五二	二、一五三、〇一五	二六、〇七六、八六二	六一、〇八六、九九一
一九〇六年	一、四四一	二、二二二、二五六	二七、三五〇、五二五	六三、三五三、七七二
一九〇七年	一、四三二	二、三三三、三七六	二九、〇三八、四四九	六八、一〇九、三七六
一九〇八年	一、四一八	二、四〇四、四五四	三〇、〇三七、一二六	六九、七八五、七九八
一九〇九年	一、四三〇	二、四六九、三九六	三〇、八一四、八七八	七〇、四二三、三五九
一九一〇年	一、四二一	二、五四一、七三四	三一、六〇九、〇〇四	七一、八六一、三八三

大陸諸國ニ於ル消費組合ノ發達ハ何レモ英國ニ及バザルコト遠シ佛國ニテハ一九〇七年ノ政府調査ニ依レハ組合ノ總數ハ二〇〇九ニシテ組合員ノ總數ハ六四一、〇四九ナリ獨逸ニテハ之ニ關スル統計左ノ如シ

組合數 一五七 組合員數 六、六四七

消費組合ノ
批評

一八七〇年	三五四	四五、七六一
一八七五年	六一八	九八、〇五六
一八八〇年	六四五	九四、三六六
一八八五年	六八二	一一〇、一五〇
一八九〇年	九八四	二一五、四二〇
一九〇〇年	一、一一八	五七〇、八八〇
一九〇一年	一、二四六	六五二、四五六
一九〇二年	一、六〇六	八〇〇、〇五二
一九〇三年	一、七四一	八一八、九一五
一九〇四年	一、八三三	八九七、〇九二

六〇四

余ハ是ヨリ消費組合ノ社會改良上ノ效果ニ就テ説明セムニ。凡ソ勞働者ノ地位ヲ改良スルガ爲ニハ必ラズ先ヅ貯金ノ美風ヲ獎勵セザルベカラス。然リ而シテ貯金ナルモノハ消費ノ節約ニ依ツテ生ズルモノナリ。然ルニ消費ノ節約ハ容易ニ行ハルベキモノニ非ラス。殊ニ勞働ニ依ツテ生活セル者ニ在ツテハ此事ヤ最モ難シトス。然ルニ消費組合ノ組織ハ組合員

ヲシテ消費ノ節約ヲナスコトナク從前ト同一ナル生計ノ程度ヲ保チ自然ニ貯金ヲナサシムルノ方法タリ。殊ニ消費ノ増加ニ伴ツテ貯金モ増加スルコト、ナル貯金方法ノ種類固ヨリ多シト雖モ其巧妙是ノ如キモノハ甚ダ稀ナリ。近時英國ノ勞働者ガ次第ニ其地位ヲ改良シ往々中等社會ト匹敵スル者アルニ至リシコトハ種々ノ原因モアラン。去レド消費組合ハ其主要ナルモノタリ。

「ラツサル」派ノ社會主義者ハ生活ノ費用ハ賃銀ノ高低ヲ定ムル惟一ノ標準ナリトノ前提ニ基キ消費組合ヲ非難シテ曰ク、消費組合ハ生活ノ費用ヲ減少スルノ結果ヲ生ズルナリ、從ツテ賃銀ノ低落ハ之ヨリ起ラザルヲ得ス。去レバ消費組合ノ利益ヲ享クル者ハ勞働者ニ非ラズシテ寧ロ資本家ナリ而シテ之ガ犠牲トナル者ハ商人ナリト。抑モ賃銀ニ關スル「ラツサル」ノ前提ハ完全ナルモノニ非ラス只一部ノ眞理ヲ含メルニ過ギズ、即チ生活ノ費用ハ賃銀ノ最低限度ヲ定ムルノ一原因タルモ、之ヲ以テ賃銀ノ

高低ニ關スル惟一ノ標準トナスハ誤謬ノ見解タルヲ免レサルナリ。然リ而シテ此事ニ就テハ茲ニ之ヲ論ズルノ必要ナシ。蓋シ消費組合ニシテ先キニ述べタル第一方法ニ依リ原價ヲ以テ物品ヲ賣捌クモノナラシメバ消費組合ハ多少生活ノ費用ヲ減少スルノ結果ヲ生スルコトアランモ、第二方法ニ依レル消費組合ハ普通市價ニ依リ物品ヲ賣捌クガ故ニ生活ノ費用ハ之ガ爲ニ何等ノ影響ヲ被ラザレバナリ。之ヲ要スルニ「ラッサル」ノ消費組合ニ對スル非難ハ毫モ批評ノ價值ナキモノト云ハサルヲ得ズ。或ハ消費組合ノ發達スルニ從ツテ小賣商ノ漸次減少スル事實ヲ見テ此種ノ組合ハ勞働者ヲ利スルト同時ニ小賣商ヲ害スルモノナルガ故ニ社會政策上何ノ得ル所ナシト論ズル者アリ。此事實ヤ全然之ヲ否定スベキニ非ラズ。各國ニ於テ消費組合ノ起ル毎ニ小賣商ノ激列ナル反對ヲ受クルヲ見テ以テ之ヲ知ルニ足ルベシ然リト雖モ消費組合ノ發達ハ小賣商ヲ絶滅ニ歸セシメ商業ニ於ル經濟組織革新ノ端緒ヲ開クノ結果ヲ生ズ

ルモノニ非ラズ。社會主義者ニ在ツテハ或ハ此結果ヲ豫測スル者アランモ余ハ之ヲ否定スルニ躊躇セス。願フニ消費組合ガ小賣商ノ地ヲ奪フハ其範圍極メテ狹隘ナリ。蓋シ消費組合ノ販賣スル物品ノ種類ハ先キニ述ブルガ如ク飲食、被服等ノ生活必需品ナル場合多キヲ以テ此以外ノ物品ニ就テ小賣商ノ營業ノ餘地綽然タルモノアリ。且又消費組合ハ組合員ニノミ物品ヲ賣捌クヲ以テ通例トナセリ。或ハ組合員以外ノ者ニ向ツテ販賣ヲナスコトアルモ、組合員以外ノ者ハ之ニ依ツテ毫モ利益ヲ受クルニ非ラズ。物品ノ購買ヲナスニ當リ消費組合ニ依ルモ小賣商ニ依ルモ何等利害ノ關係ヲ異ニスルコトナキヲ以テ此範圍ニ於テ小賣商ハ消費組合ト競争スルコト敢テ難キニ非ラズ。加之ノミナラズ消費組合ハ勞働者ヲ以テ組織セラル、ガ故ニ此他ノ社會階級ニ屬セル者ヲ得意先トナス場合ニハ小賣商ハ營業ニ於テ何等ノ影響ヲ被ルコトナシ。果シテ然ラバ消費組合ノ發達ノ爲ニ特定ノ範圍ニ於テ小賣商ノ利益ヲ害スルコト

アランモ、之ガ爲ニ小賣商ヲ絶滅ニ歸セシムルト云フハ全タク杞憂ニ屬セリ。

生産組合ノ性質

第二 生産組合

生産組合ノ目的ハ労働者ヲシテ組合ヲ設ケ共同ニ生産事業ヲ營マシムルニ在リ。此組織ニ依ルトキハ労働者ハ勞力ヲ估賣シテ資本家ノ爲ニ生産ニ従事スルニ非ラズ、組合員タル労働者ハ自ラ資本家トシテ資本ヲ供出スルト同時ニ労働者トシテ勞力ヲ供出シ、由ツテ以テ純益ノ全部ニ就キ分配ヲ受クルモノタリ。

今各國ニ行ハル、所ノ生産組合ノ組織ヲ按ズルニ、若干ノ労働者團結シテ各自相當ノ出資ヲナシ、此資本ヲ以テ工場ノ設備、器械ノ裝置、原料ノ購入等ノ費用ニ充テ、而シテ組合員ハ更ニ労働者トシテ製造ニ従事スルナリ。只業務繁忙ニシテ組合員ノミヲ以テシテハ到底製品ノ需要ニ應ズル能ハザル場合ニ在ツ、テハ組合員以外ノ労働者ヲ僱使スルコトナキニ非

ラズト雖モ生産組合ノ労働者ハ組合員ニ限ルヲ以テ通則トセリ。損益計算ニ就テハ賣上高ヨリ生産費即チ原料、燃料等ノ代價、工場、器械等ノ償却費、修繕費ヲ引去リ又組合員ノ出資ニ對シテ一定ノ利息ヲ支拂ヒ、組合員ノ勞力ニ對シテ一定ノ賃銀ヲ支拂ヒ、其殘額ヲ以テ純益トナス。此殘額ハ之ヲ準備金、基本金及ビ配當金ニ分チ準備金、基本金ハ之ヲ組合ニ積立テ面シテ配當金ハ各組合員ノ受クル所ノ賃銀額ニ應シテ之ヲ組合員ニ分配スルモノトス。

歐洲ニ於テ生産組合ノ最モ盛ンニ行ハル、所ヲ佛國トシ英獨二國ハ之ニ次グリ。是レ他ナシ佛國工業ノ特徴ハ精巧工業ニ在リ、從ツテ其工業組織ハ英獨二國ニ比スレハ寧ロ小規模ナルモノ多キヲ以テ生産組合ノ發達ニ幾多ノ便宜ノ存セルモノアルニ依ル。加之ノミナラズ數十年來、該國ノ社會改良家ノ多數ハ頻リニ生産組合ノ必要ヲ唱道シ之ガ發達ニ助力セルノ事實モ亦之ガ一原因タラズンバアラズ。然レドモ之ヲ概言スレバ

生産組合ノ運動ハ他ノ組合事業ニ比スレバ萎靡振ハザルコトハ各國ニ於テ均シク認めラレタル事實ナリトス。

生産組合ノ目的ハ先キニ述ブルガ如ク労働者ヲシテ労働者タルト同時ニ資本家タラシムルニ在リ。是レ資本家ト労働者ノ區域畫然タル現時ノ經濟組織ニ於テ一新例ヲ開クモノト云フベシ。去レバ歐洲ニ於テ始メテ之ヲ唱道シ而シテ之ヲ實行シタル者ハ多クハ社會主義者ナリ。願フニ社會主義者ノ生産組合ニ對スル觀念ハ二派ノ區別アリ。一ハ労働者ノ獨立計畫ニ成リ毫モ政府ノ保護ヲ受クルコトナキ生産組合ヲ主張セルモノニシテ、英國ニ「ローエン」アリ、基督教社會主義ニ屬セル「キングスレー」、「ヒュース」、「ニール」等アリ、佛國ニ「フリーリエー」アリ。一ハ政府ノ補助金ヲ得テ社會ヲ建設セントスルモノニシテ、佛國ニ「サンシモン」アリ、「ブラン」ノ如キハ政府ノ補助ヲ以テ之ヲ建設スルノ議ヲ立テ一八四八年ノ革命政府ハ遂ニ之ヲ實行スルニ至レリ。獨逸ニテハ「ラツサル」派ノ社會黨ハ「ブラン」ノ學說

ヲ祖述シ政府ノ保護ニ依リ生産組合ヲ組織スルコトヲ以テ其黨議ノ一ニ置ケリ。蓋シ是等ノ社會主義者ハ生産組合ニ於テ資本家ト労働者ノ區別ハ全ク之ナキヲ見テ、此組織ニシテ漸次擴張セラレ普ネク各種ノ工業ニ及ビ廣ク全國ニ渉ルノ曉ニハ彼等ガ最終ノ理想トセル所ノ共産的新社會ハ自ラ成立スベキコトヲ豫想シ、生産組合ノ發達ヲ以テ其理想ヲ遂行スル惟一ノ手段トナセルモノナルベシ。然リ而シテ生産組合ノ發達ヲ圖ルニ就キ彼等ガ政府ノ保護ヲ必要トスル所以ハ他ナシ。労働者ノ獨立經營ニ成ル所ノ生産組合ハ資本家ノ事業ト競争スルコト能ハズ。到底發展ノ望ナキヲ以テ政府ノ補助金ヲ受ケ由ツテ以テ資本家ヲ絶滅ニ歸スルコトヲ圖ルモノニ外ナラズ。

是等ノ社會主義ノ計畫タル之ヲ「マークス」派ノ社會主義ニ比スルトキハ其理想トセル共産的新社會ノ建設ニ就テハ其歸ヲ一ニセルモ其手段ニ於テ異ナルモノアリ。「マークス」派ニ在ツテハ立法ノ機關ニ於テ多數ヲ占

ムルカ、然ラザレバ革命ノ力ニ依ツテ先ヅ政權ヲ掌握シ一舉シテ土地資本ノ國有、及ビ生産事業ノ官業ヲ實行スルニ在ルモ、是等ノ社會主義ハ生産組合ノ發展ニ依リ漸次其理想ヲ實現セシムルニ在リ。去レバ「マークス」派ハ急進的ナリ此派ハ漸進的ナリ「マークス」派ハ上ヨリ下ニ向ヒ此派ハ下ヨリ上ニ向ツテ進ムモノト云フコトヲ得ベシ。

余ノ見ル所ニ依レバ生産組合ト社會主義トハ全タク没交渉ノモノタリ、生産組合ニ依ツテ新社會建設ノ手段トナスハ悖理ノ甚シキモノタリ、抑モ現時ノ經濟組織ト共產的社會トノ區別ハ自由競争及ビ私有財産ナルニ大原則ノ存在スルト否トニアリ。生産組合ナルモノハ果シテ此二大原則ヲ絶滅セシムルノ力ヲ有セルカ、余ハ其ノ然ラザルヲ斷言セント欲ス。生産組合ヲ組織セル労働者ハ資本家ト労働者トノ二種ノ資格ヲ有セルコトハ明白ナル事實タリ、然リト雖モ組合ノ資本ハ組合ノ共有ニ非ラズシテ各組合員ノ私有ニ屬セリ、組合ヲ解散スルトキハ組合員ノ私有財産

トシテ分配セラルベキモノタリ、又組合ノ營業ヨリ生ズル純益ハ賃銀ニ應ジテ組合員ノ間ニ配當セラル、ヲ常トセリ。是レ明カニ組合員ノ私有財産ヲ認ムルモノニ非ラズシテ何ゾヤ。加之ノミナラズ生産組合ノ發達スルニ及ンデハ最早資本ト勞力トノ間ニ於テ分配ニ關スル自由競争ハ其跡ヲ絶タンモ、各組合ノ間ニ於テ生産ニ關スル自由競争ハ依然トシテ存在スベク此競争ノ結果トシテ貧富ノ懸隔ハ更ニ新ナル形式ヲ以テ發生シ來ルヤ固ヨリ疑ヲ容レズ、或ハ社會主義者ハ各種ノ組合ノ間ニ聯合ヲ作り由ツテ以テ自由競争ノ弊害ヲ防止スルコトヲ主張スルモ、此聯合タル同一ノ業務ヲ執ル所ノ組合ニ就テ之ヲ組織スルコトハ敢テ難シトセザルベシ、然レドモ業務ノ種類異ナルニ從ツテ此聯合ヲ組織スルコト能ハザルベク其間ニ自由競争ノ起ル亦已ムヲ得ザルコトタリ例ヘバ製品ニ關スル組合ト原料ニ關スル組合トノ如シ且夫レ歐洲各國ニ於ル生産組合ノ實例ニ徵スルトキハ生産組合ノ内部ニ労働者ト資本家ノ

域存在セル場合ナキニ非ラス。蓋シ生産組合ノ工場ニ於テ労働ニ従事スル者ハ悉ク組合員ナルヲ以テ通則トスルモ、事業閑散ナルトキハ組合員ノ全數ヲ擧ゲテ業ヲ執ラシムル能ハザルコトアリ。此場合ニハ其所屬ノ組合ニ於テ業ヲ失ヒタル労働者ハ必ラズヤ他ノ工場ニ赴キテ以テ衣食ノ途ヲ求メザルベカラズ。之ニ反シテ事業繁忙ニシテ組合員ノミニテハ勞力ノ不足ヲ感ズル場合ニハ組合員以外ノ労働者ヲ僱使セザルベカラザルコトアリ。又労働者ハ終身同一ノ業務ヲ執ルモノニ非ラズ種々ノ原因ニ基キテ其業ヲ轉ズルコトアルベシ、其子孫タル者常ニ父祖ノ業ヲ襲ヒ世襲ノ家業ニ従事スルコトモ亦甚ダ稀ナリ。是等ノ場合ニ於テ労働者ハ必ラズヤ其所屬ノ生産組合ヲ變更セザルベカラズ。是等ノ事情ニ基キ各國ノ生産組合ニシテ其創立ノ趣意ニ背カズ其本來ノ目的ヲ失ハスシテ永久ニ存續セルモノ甚ダ少ナク、或ハ組合員ノ幾部ハ只其持分ノミヲ有シ利益ノ配當ニ與リテ毫モ勞力ヲ供出セズ宛然株式會社ノ株主タル

社會政策ニ
於ル生産組
合ノ地位

ガ如キ者アリ、或ハ組合員以外ノ労働者ノ數ハ多キニ失シ此種ノ労働者ト組合ノ間ニ労働條件ニ關スル衝突頻リニ起ルコト資本家ノ工場ト其趣ヲ異ニセザルモノアリ。由是觀之生産組合ノ内部ニ資本家ト労働者ノ區別ナキハ其創立ノ際ニ限り漸次此區別ノ復活スルコトヲ豫期セザルベカラズ。獨逸ニ於テ已ニ此傾向現ハレ多數ノ生産組合ハ事實ニ於テ一種ノ株式組織ト同一トナレルコトハ「クルニガー」等ノ説明ニ依ツテ明瞭ナリトス。之ヲ要スルニ生産組合ハ本來ノ性質ニ於テ社會主義ト何等ノ關係ナシ、而シテ自由競争ト私有財産ノ二大原則ニ牴觸スルモノニ非ズ、從ツテ現時ノ經濟組織ニ在ツテ之ニ依リテ労働者ノ地位ヲ改良シ福利ヲ増進スルコトヲ得ベク之ヲ以テ一種ノ社會改良主義ノ畫策トナス亦何ノ不可ナルコトナカルベシ。

生産組合ノ性質是ノ如シトセバ其ノ社會改良策トシテノ効果ハ自ラ之ヲ知ルニ難カラズ。抑モ雇傭關係ニ依リ資本家ノ爲ニスル労働ニ在ツテ

ハ生産ヨリ生ズル純益ハ資本家ニ歸シ労働者ハ只一定ノ賃銀ヲ受クルニ過ギザルヲ常トス然ルニ生産組合ニ在ツテハ組合員ニシテ労働ニ従事スル者ハ普通ノ賃銀ヲ受クルト與ニ純益ノ配當ヲ受クルコトヲ得ルナリ而シテ此純益ノ配當タル純益分配制ノ如クニ資本家ト労働者ノ間ニ分配セラル、ニ非ラズシテ其全額ヲ擧ゲテ労働者ノ間ニ分配セラル、モノトス又組合員ニシテ労働ニ従事セズ只持分ヲ有セル者ト雖モ純益ノ配當ニ與ルコトヲ得ルナリ而シテ組合員ニ非ラズシテ臨時ニ組合ニ備入レラレタル労働者ハ資本家ノ工場ニテ労働スル者ニ比スレバ労働者タル地位ハ敢テ異ナル所ナキモ労働條件ニ關シテ大ニ寛待セラル、コトアルヤ言ヲ俟タズ。

今ヤ歐洲各國ニ於テ生産組合ノ運動ガ萎靡振ハザルコトハ先キニ之ヲ述ベタリ是レ何ニ由ツテ然ルカ凡ソ生産組合ハ工場機械ノ設備ノ爲ニ巨額ノ固定資本ヲ要スル所ノ事業ニ於テ發達スベキモノニ非ラズ奈何

ントナレバ是ノ如キ巨額ノ資本ヲ醸出スルコトハ到底労働者ノ力ノ及バザル所ナレバナリ是ヲ以テ此種ノ組合ハ大工業ニ應用スルコト甚ダ難ク只特定ノ小工業ヲ以テ其應用ノ範圍トナスノミ且夫レ生産組合ハ其製品ノ價格ハ激變ニ罹リ易ク又其販路ニ就テ競争ノ劇甚ナル工業ニ於テ發達シ得ベキモノニ非ラズ蓋シ物價ノ變動販路ノ消長ヲ見テ之ニ應ズル適當ノ處置ヲナスコトハ多年商工業ノ經驗アル資本家ト雖モ尙ホ難シトスル所ナリ況ンヤ是等ノ事柄ニ就テハ概シテ經驗知識ナキ労働者ニ於テヤ去レバ生産組合ヲ應用スベキ工業ハ特定ノ範圍ニ限極セラレタリト云ハザルヲ得ズ加之ノミナラズ生産組合ノ經營ノ爲ニ最も必要ナルハ適當ナル管理者ヲ得ルコト、ス之ヲ組合員中ニ求ムルハ甚ダ難シ或ハ外部ノ人ヲ備入レテ其任ニ當ラシムルノ方法アルモ此種ノ管理者ハ労働者タル組合員ニ對シ其思想性行ノ合致セザルコトアリ從ツテ事業ノ進歩ヲ阻害スルノ憂アルヲ免レズ何レノ場合ニ於テモ管

理者ト組合員ノ間ニ純益ノ分配ニ關シテ多少ノ衝突ヲ起スコトハ屢々之ヲ見ル所ナリ。又適當ナル管理者ヲ有セル所ノ組合ニ在テモ生産組合ノ性質トシテ其營業ニ關シテ組合員ト協議シ多數ノ意思ニ依ツテ處決セザルベカラザルガ故ニ機ニ臨ミ變ニ應ジ專決果斷ノ處分ヲナスコト能ハズ。靈妙ナル手腕ヲ有セル管理者ト雖モ之ヲ奈何ントモスル能ハザル場合少シトセズ。且夫レ生産組合ノ事業ニシテ一朝否運ニ向ヒ巨額ノ損失ヲ醸セルトキニ際シ損失ノ填補ヲナスノ方法ヲ設クルコト甚ダ難シ。奈何ントナレバ組合員ハ悉ク恒産ナキ労働者ナルヲ以テ持分以外ノ出資ヲナスコト能ハザレバナリ。或ハ準備金ノ制ヲ設ケ之ニ備フルモノアルモ組合員ハ純益アルトキハ成ルベク其配當ヲ多クスルコトヲ務メ充分ナル準備金ヲ積立ツルコト能ハザルハ労働者ノ地位トシテ已ムヲ得ザルコトナリ。此場合ニ於テ生産組合ハ終ニ破産ノ悲境ニ陥ラザルヲ得ズ之ヲ要スルニ生産組合ハ各種ノ社會改良策中其經營最モ困難ナル

モノタリ。今ニ至ツテ此種ノ畫策ガ盛運ニ向ハザルハ亦偶然ニ非ラズ。労働者ト産業組合ノ關係ニ於テ余ハ特ニ消費組合及ビ生産組合ニ就テ説明ヲ試ミタリ。此以外ノ産業組合ニシテ労働者ガ由ツテ以テ其福利ヲ増進シ其地位ヲ改良スルニ足ルモノナキニ非ラズ。例ヘバ信用組合等ノ如シ。然レドモ是等ノ組合ハ多クハ小工業者ノ經營ニ係リ労働者ニ依ツテ組織セラレタルモノハ各國ニ於テ其實例甚ダ少ナキヲ以テ茲ニ之ニ論及セザルナリ。

工業經濟論 終

明治四十年三月八日初版印刷
 明治四十一年三月十二日再版印刷
 明治四十五年九月一日訂正三版印刷
 大正四年十月五日訂正四版印刷
 大正六年十二月一日增訂改版印刷
 大正六年十二月五日增訂改版發行

增訂工業經濟論奧附
 正價金貳圓五拾錢
 上製金五拾錢增

禁漢譯

著作
 所有

著者
 發行者
 印刷者

桑田熊藏
 江草重忠
 松澤玳三

東京市神田區一ツ橋通町五番地
 東京市神田區下六番町十七番地

發行所

東京市神田區南神保町十三番地
 電話本局三三三番 四四九番
 振替口座東京三三三〇番

有斐閣書店



發賣所
 發賣所
 發賣所

東京市本郷區森川町一番地
 東京市牛込區早稻田鶴卷町
 東京市牛込區看町二十二番地

有斐閣雜誌店
 終閣書房
 影堂書房
 玉堂書店

(會勞同【番九六三町番話電】地番七十町番六下區町麴市京東·所刷印)

40
849

終

